



### 宮司プレス 第百九十七号

彦島八幡宮 宮司ニユース

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 令和五年二月二十八日

◇宮司の柴田です。 昨日の二月二十七日は、

旧暦の二月八日で、正月行事が終わって、人々が日常生活に戻り、農作業を始める日とされる、

「事八日(ことようか)」の日でした。 その日

に、宮司を兼ねている田の首八幡宮でも、私共の「事八日」といふべき、一年の一番最初の大祭である祈年祭(きねんさい)を齋行(さいこう)しました。 今から百五十一年前の明治五

年十二月に太陰暦(たいいんれき)、いわゆる、旧暦から、太陽暦である現在の新暦に移行しました。 したがって、旧暦という時間座標軸(じかんざひょうじく)を意識すれば、御先祖様と時間と折節(おりふし)の移ろいを共有(きょうゆう)できるわけなのです。 国連は、令和十二年を目標(めど)に、「持続可能(じぞくかのう)な開発目標(かいはつめくひょう)、SDGs(エスディーズ)」を掲(かか)げています。 世界広しといえども、「干支(えと)」を使っているのは、日本だけです。 もちろん、干支は、中国から伝わりましたが、本家本元(ほんけほんもと)は、「文化大革命(ぶんかたいめい)くめい)で廃止(はいし)しています。 グロ

バルな時間座標軸(じかんざひょうじく)ということ、西暦を使いますが、日本には、神武天皇(じんむてんのう)様が即位されたのを紀元(きげん)とする「皇紀(こうき)」という、独自の時間座標軸(じかんざひょうじく)を有(あ)っています。 そして、孝徳天皇(こうとくてんのう)の時代に、「大化(たいわ)」という最初の元号(げんごう)がつかわれ、現代の「令和(れいわ)」まで続いています。 私共の「持続可能な開発目標(じぞくかのうのかいはつめくひょう)」は、「皇紀(こうき)」、「元号(げんごう)」、「旧暦(きゅうれき)」、「干支(えと)」という時間座標軸(じかんざひょうじく)をはじめ、「日本人の道徳(みちとく)」ともいふべき、「敬神(けいじん)」、さらに、「生活の古典(こてん)」である「年中儀礼(ねんちゅうぎらい)」を次代(つぎ)につないでいくことではないかと、最近、つくづく考えるようになりました。

◇さて、昨日の田の首八幡宮で齋行した祈年祭(いねねさい)は、私共日本人が、生きていく上で欠くことのできない、お米をはじめ五穀(ごこく)豊穰(ほうじょう)を祈るお祭りのことでもあります。 祝詞(いのり)では、「祈年祭(いねねさい)のことを、「としごいのみまつり」と奏上(そうじょう)しますように、稲(いね)の別名(な)が、「年(とし)」でありますから、豊年満作(ほうねまんざく)を祈るお祭りなのです。 「年(ねん)」は、「稔(ねん、みのり)」にもつながりま

すから、運命共同体としての地域社会が、息災(そくさい)に過(とし)し、旱(ひでり)や風水害(ふうずいがい)の災(わざわ)いもなく、十一月二十三日の新穀(しんこく)を祝(いわ)う、新嘗祭(にいなめさい)を迎(むか)えることが出来ることを祈(いの)るのです。 祈(いの)りは、「誓(ちか)い」でありますから、神様(かみさま)にお誓(ちか)いをする、お約束(やくそく)をするのです。 そして、そのお約束(やくそく)、約定(やくじょう)を、反故(ほんこ)にしないよう、懸命(けん命)に日々つとめるのです。 これを「予祝(よしゆく)」といいます。 予(あらかじ)めお祝いをして、きつとうまくいく、必ず成(な)し遂(と)げる、まさに、神社神道(しんしゃしんどう)の大切(たいせつ)にしている、「前向き(まへむき)に人生(じんせい)を楽しむ」という思いにつながります。 その過程(かてい)は、自分の思うようにならないこともあります。 トライ アンド エラー(トライ アンド エラー)を繰り返しながらも、きつと、神様(かみさま)は助けてくださるという、神の御加護(みかご)を信(ま)じるのです。 これこそが、「神信心(かみしんじん)」だと思(おも)います。 ケネディ大統領(ケネディ大統領)は、「物をなくすと小さなものを失(な)う 信(ま)頼(たの)をなくすと大きな物を失(な)う 勇(ゆう)気をなくすとすべてを失(な)う」と仰(おっしゃ)いました。 「神信心(かみしんじん)」という、「日本人の勇気(ゆうき)」を持(も)ち続けなければならぬと思(おも)います。 まさに、「神信心(かみしんじん)」の実践(じっけん)の日々(日々)が、「祭祀(さいし)の厳修(げんしゅう)」にほかなりません。

◇宮司プレス既刊号(きかんこう)にも記載(きさい)したことがあります。当宮(とうぐう)正面参道の鳥居は、昭和十五年、皇紀二千六百年を奉祝(ほうしゆく)して建立(こんりゆう)されました。八十三年も前のこと。当時としては、大鳥居(おおとりい)だったと思います。今でも大型バスが、進入可能です。その鳥居の柱の右側には、「日光照萬民(にっこうしやうばんみん)」、左側には、「月色清人心(げっしよくせいじんしん)」と刻(きざ)まれています。苦難(くなん)が来ても、止(や)まない雨はないように、きつと必ず、日はまた昇(のぼ)る、すべての人に光(ひかり)がそがれるという、前向きな気持ちにならなければというのが、「日光照萬民」です。坂村真民(さかむらまこと)さんは、「影あり 仰げば月あり」という詩を残しておられますが、まさに、謙虚(けんこ)に自分を見つめ直し、新たな一歩を踏み出させねばという気持ちにしてくれるのが、「月色清人心」ではないかと思えます。

◇今、私共の社会は、「ポリクライシス(複合危機(ふくごうきき))」が、叫ばれている時代だといわれています。地政学(政治現象や地理的条件との関係を研究する学問)や経済、地球環境の問題が連動(れんどう)し、からみあい、それぞれのリスクをあわせたもの、総計、総和を上回る危機に発展しかねないそうです。コ

ロナ禍(ろなご)しかり、ウクライナ戦争(うクライナせんそう)しかり、景気が後退(こうたい)しているのに値上がり(ちあがり)が続く、スタグフレーション(しやうぷれいしょん)しかりです。大切なのは、人類共通(じんるいきょうどん)の脅威(きょうい)であるコロナ禍(ろなご)の三年間(さんねんかん)を、社会的秩序(しゃくせきじつじゆ)を保つ(たも)ててきた、「日本人の勇氣(にほんじんのもうぎ)」である、「日光照萬民(にっこうしやうばんみん)」、「月色清人心(げっしよくせいじんしん)」の「神信心(かみしんじん)」を失(う)われないことではないでしょうか。御自愛(ごじあい)を祈(いの)ります。

◇二月の宮司動静報告(にがつのみやうどうじやうほうごう)

▽彦島八幡宮関係団体(ひこしまやまはたぐわんけいだんたい)

□神道会世話人会(かみちうかいせわじんかい) \*二月二十六日

※家の宗旨(しゅうじ)が神道(かみちう)の方(かた)の世話人会(せわじんかい)、春(はる)の祖霊祭(そりいさい)について協議(ぎぎょう)

▽山口県神社庁関係(やまぐちけんしんじやうけんけい)

□山口県神社庁幹事会(やまぐちけんしんじやうかんじかい) \*二月六日

□下関支部幹事会(しもつけしぶかんじかい) \*二月八日

□建国奉祝会実務者会議(けんこくほうしゆかいじつむしやうかいぎ) \*二月八日

□山口県神社庁役員会(やまぐちけんしんじやうやくいんかい) \*二月十日

- ▽月次祭 \*二月一日、十五日
- ▽貴布祢神社月次祭 \*二月一日
- ▽花手水実施 \*二月三日〜十五日
- ▽節分祭 \*二月三日
- ▽下関三井化学百周年記念植樹祭 \*二月七日

- ▽紀元祭 \*二月十一日
- 本宮 \*午前十時
- 下関市建国祭 \*午後二時
- ※奉祝パレード ↓ 彦丸広場〜夢ひろば
- ※祭典、式典、講演 ↓ 下関市民会館
- ▽祈年祭
- ※本宮 彦島八幡宮 \*二月十七日
- ▽学校関係、その他
- 西山小学校CS \*二月十日
- 玄洋中CS \*二月十七日
- 迫町自治会役員会 \*二月十五日



- ▽祈年祭
- ※本宮 彦島八幡宮 \*二月十七日
- ▽学校関係、その他
- 西山小学校CS \*二月十日
- 玄洋中CS \*二月十七日
- 迫町自治会役員会 \*二月十五日

- ▽学校関係、その他
- 西山小学校CS \*二月十日
- 玄洋中CS \*二月十七日
- 迫町自治会役員会 \*二月十五日
- ▽教誨師関係
- 釈放前指導講話 \*二月二十八日
- ※美祢社会復帰促進センター、釈放前のセンター生への指導講話
- ▽支部長事務局長会議、例祭 \*二月十三日
- 日本会議山口講演会 \*二月十八日
- 巡回祭典後講話研修会 \*二月二十一日
- ※宇部市、南方八幡宮にて開催